

令和2年4月3日

各 学 部 長  
地 域 創 造 学 環 長  
光 医 工 学 研 究 科 長  
創 造 科 学 技 術 大 学 院 長  
電 子 工 学 研 究 所 長  
グ リ ー ン 科 学 技 術 研 究 所 長  
各 学 内 共 同 教 育 研 究 施 設 長 殿  
イ ノ ベ ー シ ョ ン 社 会 連 携 推 進 機 構 長  
国 際 連 携 推 進 機 構 長  
安 全 衛 生 セ ン タ ー 長  
男 女 共 同 参 画 推 進 室 長  
附 属 図 書 館 長  
事 務 局 長  
技 術 部 長  
保 健 セ ン タ ー 所 長

学 長

新型コロナウイルス感染症に関する就業上の取扱いについて（通知）【第5報】（抄）

標記については、令和2年3月23日付け「新型コロナウイルス感染症に関する就業上の取扱いについて（通知）【第4報】」により通知しているところですが、新型コロナウイルスの感染者数が増加し、また、感染者が確認された地域が拡大していることを受け、新型コロナウイルス感染症に関する就業上の取扱いについて、別紙のとおり定めましたので、教職員に周知していただくとともに、遺漏ないようご対応願います。

なお、第4報からの主な変更点は下記のとおりです。

また、令和2年3月23日付け「新型コロナウイルス感染症に関する就業上の取扱いについて（通知）【第4報】」は、本日をもって廃止します。ただし、廃止日において第4報に基づいて処理している就業上の取扱いについては、引き続き第4報に基づいて処理するものとします。

## 記

### 第4報からの変更点

「新型コロナウイルス感染症のまん延を防ぐために学長が必要と認める教職員に関する就業上の取扱い」の対象者のうち、風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上続く者については、新型コロナウイルスに関するQ&A（一般の方向け）（令和2年4月2日時点版）に基づき、次のとおり改めることとした。

「新型コロナウイルス感染症のまん延を防ぐために学長が必要と認める教職員に関する就業上の取扱い」の対象者

下線は変更箇所

変更前（第4報）	変更後（第5報）
<ul style="list-style-type: none"><li>風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上続く者（解熱剤を飲み続けなければならない者も同様）</li><li>強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある者</li><li>新型コロナウイルス感染症が確定した者と濃厚接触があった者であって、濃厚接触があったときから14日経過していない者</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上 <u>(※)</u> 続く者（解熱剤を飲み続けなければならない者も同様） <u>※ 高齢者をはじめ、基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患等））がある者や透析を受けている者、免疫抑制剤や抗がん剤などを用いている者にあつては2日程度、妊娠中の者にあつては2日以上</u></li><li>(同左)</li><li>(同左)</li></ul>

(本件担当)

国立大学法人 静岡大学  
総務部職員課

電話 054-238-4419

F A X 054-238-3274

新型コロナウイルス感染症に関する就業上の取扱い

I 新型コロナウイルスに感染した教職員（大学の非常勤講師を除く。以下同じ。）に関する就業上の取扱い

1. 新型コロナウイルスに感染した教職員に対する就業上の措置

- ・ 就業禁止とする。
- ・ 就業禁止期間の末日は、原則として、治癒日とする。

2. 就業禁止となった教職員における手続き

- 1) 新型コロナウイルスに感染したことにより就業禁止となった教職員は、新型コロナウイルスに感染した旨を部局の総務担当に連絡するとともに、医療機関等の指示に従うものとする。
- 2) 同教職員は、治癒したときは、医療機関等の治癒証明書等を部局の総務担当に提出するものとする。

3. 部局の総務担当における手続き

- 1) 部局の総務担当は、新型コロナウイルスに感染した旨の連絡を教職員から受けたときは、その旨を保健センター及び総務部職員課へ連絡するものとする。
- 2) 同担当は、就業禁止となった教職員から提出された治癒証明書等を保管するものとする。
- 3) 同担当は、就業禁止となった教職員に係る労働時間報告については、総務部人事課と協議のうえ対応するものとする。
- 4) 同担当は、就業禁止となった教職員に係る出勤簿については、就業禁止となる日の上欄に「就業禁止」と表示するとともに、摘要欄にその事由及び期間を記載するものとする。

## II 新型コロナウイルス感染症のまん延を防ぐために学長が必要と認める教職員に関する就業上の取扱い 【別添のフローチャート参照】

### 1. 新型コロナウイルス感染症のまん延を防ぐために学長が必要と認める教職員に対する就業上の措置

- ・ 就業禁止とする。
- ・ 就業禁止期間の末日は、原則として、在住する地域の各保健所に開設される「帰国者・接触者相談センター」の指示、医療機関等の検査結果等をもとに判断した日とする。

### 2. 該当者

新型コロナウイルス感染症のまん延を防ぐために学長が必要と認める教職員とは、次に掲げるいずれかの者をいう。

- ・ 風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上（※）続く者（解熱剤を飲み続けなければならない者も同様）
  - ※ 高齢者をはじめ、基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患等））がある者や透析を受けている者、免疫抑制剤や抗がん剤などを用いている者にあつては2日程度、妊娠中の者にあつては2日以上
- ・ 強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある者
- ・ 新型コロナウイルス感染症が確定した者と濃厚接触<sup>注1</sup>があつた者であつて、濃厚接触<sup>注1</sup>があつたときから14日経過していない者

注1 濃厚接触かどうかを判断する上で重要な要素は二つあり、①距離の近さと②時間の長さです。必要な感染予防策をせずに手で触れること、または対面で互いに手を伸ばしたら届く距離（目安として2メートル）で一定時間以上接触があつた場合に濃厚接触者と考えられます。

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議では、対面で人と人との距離が近い接触（互いに手を伸ばしたら届く距離で2メートル程度）が、会話などで一定時間以上続き、多くの人々との間で交わされる環境は感染を拡大させるリスクが高いとされています。

【引用元】 厚生労働省作成「新型コロナウイルスに関するQ & A（一般の方向け）」（令和2年3月2日時点版）

### 3. 就業禁止となった教職員における手続き

- 1) 「2. 該当者」に該当したことにより就業禁止となった教職員は、直ちにその旨を部局の総務担当に連絡するとともに、在住する地域の各保健所に開設される「帰国者・接触者相談センター」に相談し、同センターの指示に従うものとする。
- 2) 同教職員は、相談結果及び検査結果（帰国者・接触者外来を設置してい

る医療機関において検査を受けた場合に限る。)を部局の総務担当及び保健センターに報告するものとする。

報告にあたって、検査結果報告書がある場合は、同報告書を部局の総務担当に、同報告書の写しを保健センターに提出するものとする。

静岡大学保健センター静岡支援室 054-238-4468

静岡大学保健センター浜松支援室 053-478-1012

- 3) 同教職員は、相談結果及び検査結果を踏まえた保健センターからの連絡を受けた後に、就業を開始するものとする。

### Ⅲ 外国から来航する航空機又は船舶に搭乗し又は乗船していた教職員に関する就業上の取扱い

#### 1. 外国から来航する航空機又は船舶に搭乗し又は乗船していた教職員に対する就業上の措置

- ・ 「2. 該当者」に該当する教職員は、就業禁止とする。
- ・ 就業禁止期間の末日は、降機日又は下船日から14日経過した日とする。

#### 2. 該当者

外国から来航する航空機又は船舶に搭乗し又は乗船していた教職員に対する就業上の措置の対象者は、次に掲げるいずれかの者をいう。

- ・ 令和2年3月23日以降に外国から来航する航空機又は船舶に搭乗し又は乗船していた教職員
- ・ 令和2年3月22日以前に外国から来航する航空機又は船舶に搭乗し又は乗船していた教職員であって、学長が特に必要と認める者

#### 3. 就業禁止となった教職員における手続き

- 1) 「2. 該当者」に該当したことにより就業禁止となった教職員は、直ちにその旨及び次の事項を部局の総務担当に連絡するものとする。
  - ・ 外国での滞在地及び滞在期間
  - ・ 外国から日本への出発日及び出発地
  - ・ 航空機又は船舶の便名、出発時刻及び到着時刻
  - ・ 日本の到着日及び到着地
- 2) 同教職員は、就業禁止期間は自宅等に待機し、健康状態の経過観察をするものとする。
- 3) 同教職員は、就業禁止期間中、部局の総務担当と連絡がとれるようにするものとする。
- 4) 同教職員は、就業禁止後に出勤する場合は、あらかじめ部局の総務担当に連絡するものとする。
- 5) 同教職員は、就業禁止後に出勤したときは、速やかに1)に掲げる事項（一つ目の事項を除く。）を証する書面を部局の総務担当に提出するものとする。

本通知内容は、今後の新型コロナウイルス感染症の流行状況、厚生労働省等からの通知、本学の産業医の意見等を踏まえて見直すことがあるため、新型コロナウイルスに関する学内周知及び関連情報を取りまとめた次のサイトを随時参照するものとする。

<https://www.shizuoka.ac.jp/news/2020/covid-19.html>

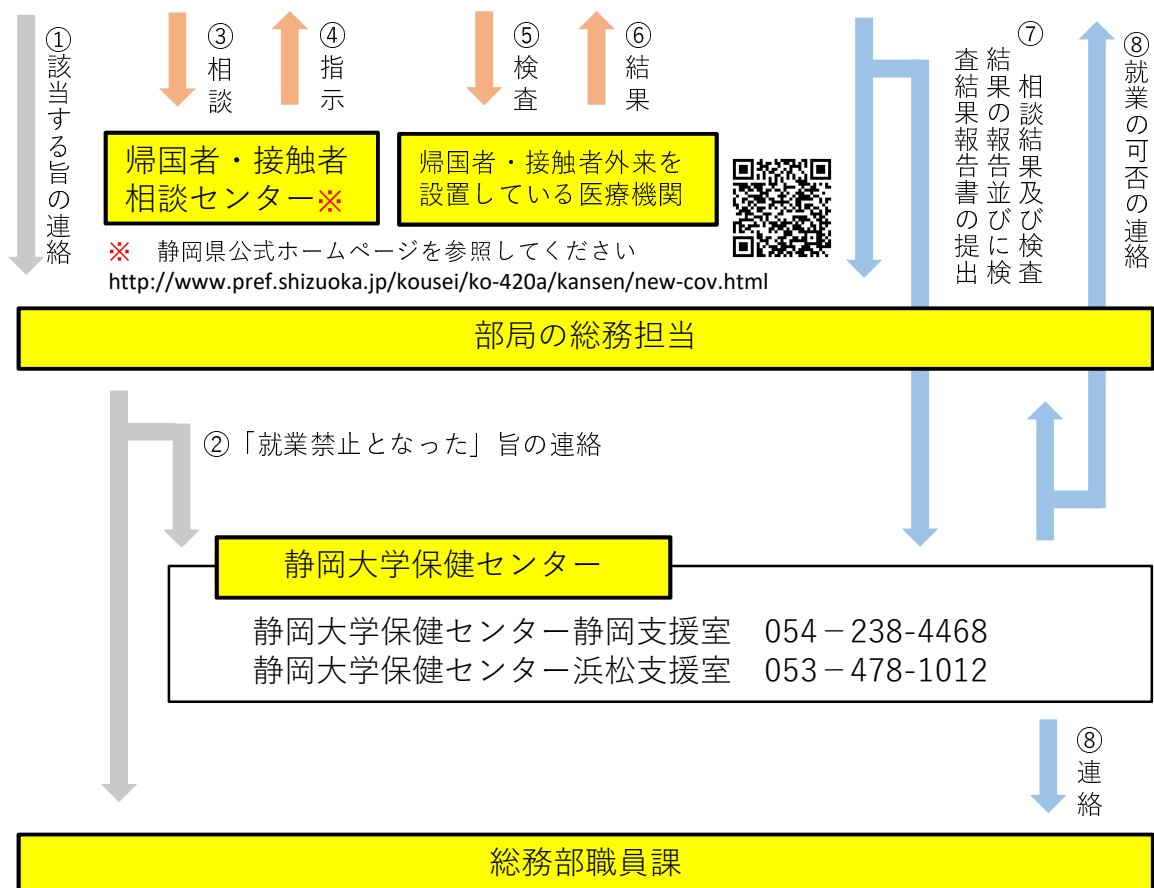


## 新型コロナウイルス感染症のまん延を防ぐために学長が必要と認める教職員の就業上の取扱い

### 教職員

次に掲げるいずれかの者については、**就業禁止**とします。  
つきましては、次に掲げる者は、直ちに該当した旨を部局の総務担当に連絡するとともに、「帰国者・接触者相談センター」に相談し、同センターの指示に従って下さい。

- ・ 風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上（※）続く者（解熱剤を飲み続けなければならない者も同様）  
 ※ 高齢者をはじめ、基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患等））がある者や透析を受けている者、免疫抑制剤や抗がん剤などを用いている者にあつては2日程度、妊娠中の者にあつては2日以上
- ・ 強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある者
- ・ 新型コロナウイルス感染症が確定した者と濃厚接触注1があつた者であつて、濃厚接触注1があつたときから14日経過していない者



今後の新型コロナウイルス感染症の流行状況、厚生労働省等からの通知、本学の産業医の意見等を踏まえて見直すことがあるため、新型コロナウイルスに関する学内周知及び関連情報を取りまとめた次のサイトを随時参照して下さい。

<https://www.shizuoka.ac.jp/news/2020/covid-19.html>

